

個人の出すごみの量が増えています!



資源リサイクルセンター焼却施設(昭和61年築)

人口は減っているのに、ごみの排出量は減っていません
 市では、年間約3万トンのごみが発生しています。そのうち65%が家庭から出されるごみ、35%が事業所から出されるごみです。
 下のグラフ①が示すとおり、人口は

みんなで考えよう シリーズ1

ごみ処理の現状

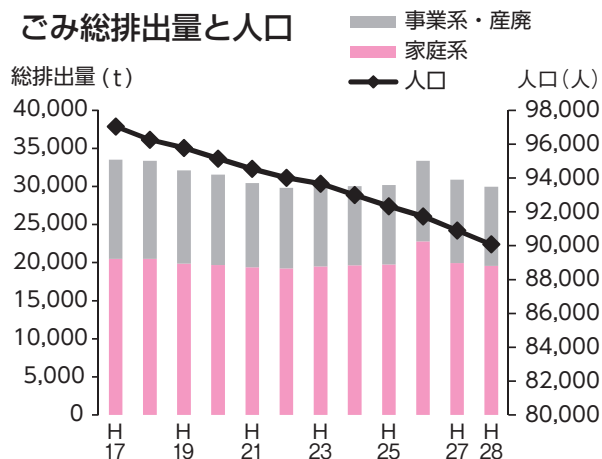
市では、長年使用してきたごみ焼却施設に替わる、新ごみ焼却施設建設の検討をすすめています。

ごみの発生抑制や処理については、市民の皆さまのご理解とご協力が必要であり、今号からシリーズで、ごみ処理事業に関する情報を提供していきます。

今回は、高山市のごみの発生状況、減量化などについてお知らせします。

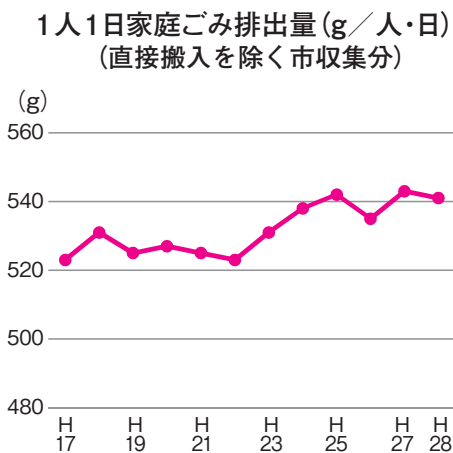
問合せ先 生活環境課 ☎35-3138

グラフ①



減少していますが、ごみの総排出量は減っていません。また、市で収集している家庭から出るごみについては、一人ひとりが出すごみの量が増加傾向にあります(グラフ②)。

グラフ②



可燃ごみの半分は水分が占めています
 市で収集した家庭ごみの主な種類別では、可燃ごみが77%を占め、不燃ごみが8%、資源ごみが13%となっています。
 また、平成28年度に行ったごみ質調査によると、可燃ごみの成分のうち約45%は水分が占めていますので、減量化には可燃ごみの水分を減らすことが有効です(グラフ③)。

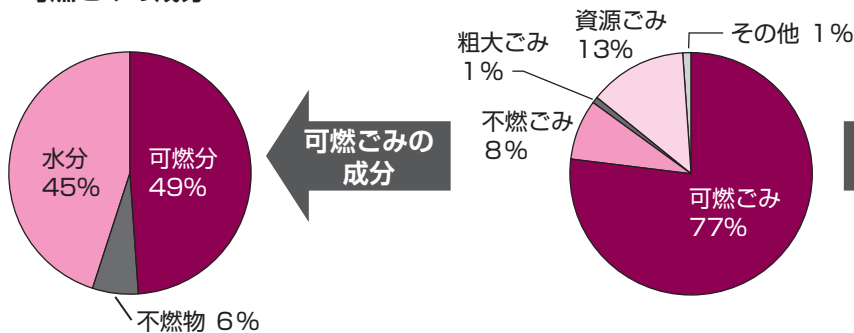


久々野クリーンセンター焼却施設(平成2年築)

家庭ごみの種類別内訳と調査結果 (平成28年度)

グラフ③

可燃ごみの成分



可燃ごみの種類組成(水分を除く)

